



# 日 口 交 流

発行 : 特定非営利活動法人 日口交流協会

E-mail:nichiro@nichiro.org

Home Page http://www.nichiro.org

〒106-0041 東京都港区麻布台3-4-14 麻布台マンション401号

Tel : 03 (5563) 0626 Fax : 03 (5563) 0752



## 平成29年初場所観戦ツアーに参加して

山田 淳子

初場所二日目にあたる1月9日、昨年に続き行われた協会主催の相撲観戦ツアーに参加しました。総勢35名、大使館からは前回は上回る30名もの方々が参加し相撲への関心の高さがうかがわれました。

連日満員御礼となった初場所でしたが、「成人の日」のこの日、国技館は和装で行き交う観客も多く、お正月らしい晴れやかな雰囲気に包まれていました。

参加者が三々五々集まったのは十両取り組みが行われる午後3時前後、折しもロシア出身唯一の関取・十両の阿夢露関が土俵に上がるところでした。ロシアの皆様は《Ha!!!》と口々に伝え合い、身を乗り出して取組を見守っていました。その甲斐あってか阿夢露関は下手投げで見事な勝利。私たち日本人サイドも一緒になって歓声を上げました。

ロシア出身としては、もうひとり三段目に大露羅という力士がいます。270kg超の体重は角界一、個性豊かなパーソナリティで相撲ファンの間では密かな人気を誇っています。この日は出待ちをして初めて間近でナマ大露羅さんにお目にかかることができました。ロシア語で声援を送ると、笑っ

て応えてくれましたよ！日露二か国語でつぶやかれる大露羅さんのtwitterもお勧めです。

ロシア人ご家族の近くに座ったこともあり、観戦中いろいろな質問を受けました。所作や身に付けているものが持つ意味、力士になるにはどうしたらいいの？、日本人にとっての相撲、等。よくある質問もあれば、うーんと咄嗟に答えが見つからないものも。横綱が負けて座布団が舞ったときには「観客は喜んでいるの？怒っているの？」と聞かれました。見慣れている光景だったのでしばし考え込んでしまいました。私なりにこう答えました。「両方。喜怒哀楽を表に出すことの少ない日本人にとって、巨漢の勝ち負けに打ち興じ歓声を上げ土俵めがけて座布団を投げて、思い切り感情を発散しているのだ。」と。

たしかに場所中の国技館では、観客の表情には特別の高揚感が見受けられます。土俵上の力士や独特な造作だけでなく、訪れる人も普段と違う姿を見せる大相撲本場所。観戦を通してロシアの方々には日本や日本人が持つ別な一面を感じていただけたらうれしいです。

## きもの体験交流

千葉 麻里

2016年12月22日(木)ロシア大使館付属学校内のホールで、きもの体験コーナーを設けて大使館の皆さんの希望者にきつけが行われた。エレナさんが綺麗な写真入りのリストを作成してくれていたの、人数や子どもの身長も記入されておりスケジュールが立てやすかった。

1時間ごとに8~10名ずつ、仕事や勉強の合間をぬってホールに来る人に予め郵送しておいた着物を着せる。ヨルカ祭が近いのでモミの木や星や雪などの飾りつけの中で、ポーズをとったり回ってみたりして写真を撮るのが楽しそうだった。坂本さんがポーズの指導をしたり世話をやいてくれた。子どもたちも髪飾りをつけてもらってモデルになる。

窓ガラスなどに貼られた雪娘やマローズお爺さんの見事な切り紙は校長先生の手作りだそう。雪娘の髪など細かいところまで丁寧に切り抜かれていてどれも芸術的な作品だった。

12月後半になると子ども達も様々なモミの木の飾りつけを創作して展示したり、大使館でも毎年、コンサートや劇をして祝いし、年末からは1月10日までの長い休みに入る。この日はその時期で、学校はお祝い気分が華やいている。

着付けは、第14回日本文化交流団に参加した森美恵子先生、金澤マサ子先生、私の生徒の佐佐木晴子さんに助手に入ってもらい4名で行った。ホールの床に衣装敷きを何枚も広げ、振袖8セット、子どもの着物を5セット並べ、写真撮影が終わると脱がせてまた別の人が着せる。洋服の上に着せ



るので長襦袢は省略し、半衿だけで補正もほとんどしないので着崩れしやすいのが難点だが、みんなその点はベテランなので安心だ。

10時から始まり、2時前には40名近くを着せ終わって終了した。大使館では飲み物や、いつもながら手作りのピロシキやケーキなどを用意してくれる。帰りにはそれを一人ずつ手土産にしてくれた。一汗流して片付けた後に、大使館のご婦人方の温かい心遣いはいつも有り難く、みんな来て良かったと思う。また、エレナさんはいつの間にか着物姿の写真を紙袋に印刷し、ロシアの小さな民芸品とチョコレートをに入れて私たちにくださった。年末のせわしない時期にほっと一息、心温まる楽しいひとときだった。(常任理事)

### 会員の皆様へのお知らせ

● NPO 日口交流協会第17回(通算53回)通常総会開催

日時: 3月24日(金) 14:00~15:00

場所: 新橋生涯学習センター 305

\* ご出欠等のハガキをお早めにお送りください。

## アストラハン(2)

浜野 道博

さて、バグダードの人 Ibn Fadlan のボルガ・ブルガールの道行きから 600 余年後、一人の英国人がアストラハンに降り立った。モスクワを発して2カ月半のボルガ下りの末のことである。時は 1558 年 7 月、イワン雷帝がアストラハン汗国を壊滅させて2年経ったばかりで、付近一帯の安全は確立されておらずイワン雷帝は多数の兵と大量の防衛資材を搬送させた。

英国人の名前はアンソニー・ジェンキンソン。若輩 27 歳にしてロンドンのモスクワ商会の人であり駐ロシア・イングランド大使でもある彼の遠征の目的はアストラハンではなかった。イワン雷帝に説いて雷帝の親書を手に入れここから中央アジアのブハラ汗国へ向かったのである。18 世紀後半ロシアが中央アジア征服を目論んでシベリアから陸路南下し始めるまで、ロシアから中央アジアへはアストラハン経由カスピ海を経てトルクメン族の跋扈する土地を通して到達するのが習わしであった。

ジェンキンソンは何度も生死の危険にさらされながら同年 12 月にはブハラにたどり着きイワン雷帝の親書をハンに呈上し大役を果たしたかに見えたが遠征にかけた彼の真の目的はそこにはなく、カタイ (Cathay) と呼ばれた中国との貿易ルートの調査開拓にあった。しかし、たどり着いたブハラの市場にはペルシャやインドの商人はいるものの中国との取引はまったく行われておらず、持参したイングランド製の織布も販路を見つけないでジェンキンソンは落胆してモスクワに戻るのだった。

当時のロシアは人口数百万の小国でありイワン雷帝に至ってようやくボルガ河周辺の征服に乗り出し 1552 年に多数の軍

ウズベキスタン使 (3)

## 「NORIKO 学級」の今日この頃 3

寺尾 千之

市井の人、大崎さんご夫妻が、1999 年リシタンに創設した「NORIKO 学級」は、開校当初から延べ 100 人以上もの子ども達で溢れかえる人気の日本語教室になります。2 年後に、病氣療養のため帰国した後も NORIKO 学級生徒を地元の小松短大単位履修生として招待するため、病身を押しつけて精力的に行動します。「公立高校の子どもが 1 人増える程度の経費で済みそうです」と、嬉しそうなメールが事務局に届いたのは、大崎さん自身が情報を集め奨学金や寮などを活用すれば、限られた予算と期間でも招待可能との目途をつけた頃でした。静かな物腰の方でしたから、見過ごしていましたが、誰にも真似のできない行動力と、卵を立てて見せたコロンブスのような発想力の持ち主だったのだと、今では認識しています。だからこそ、旧ソ連から独立間もないウズベキスタンの、小さな町・リシタンに日本語学校創設の夢を実現することができたのです。

最近では、NORIKO 学級関係者を、日本人とウズベク人の混合コロンブス集団と思うようになってきました。留学生を 2 年間ホームステイさせている方、出世払いの約束のもと、学費を継続支援している方、毎年渡航し NORIKO 学級で教鞭をとっている方などを、すぐに思い出すことができます。留学生達は、日本語能力検定 1 級取得やスピーチコンテスト受賞など、一層の高みを目指して勉学に励んでいます。去年 12 月に開催された全日本留学生日本語スピーチコンテストに某

勢をもってカザンを陥落させ、その勢いで 1556 年にアストラハンを征服したばかりであった。ブハラ汗国への遠征などジェンキンソンがたきつけない限りイワン雷帝の脳裏に浮かぶはずがない。そもそもイワン雷帝と英国人という取り合わせが意表外である。

100 年前に消滅したビザンチン帝国を承継する意気高いロシアは隣合うリトアニア、ポーランド、スウェーデンそれにチュルク系イスラム教徒との戦いに明け暮れていた。そこにエリヤンのごとく英国人が登場しわずかな期間であるが露英貿易が大いに繁盛し、ついにイワン雷帝がエリザベス一世に求婚する「おまけ」まで付くのだがそのいきさつは割愛する。

イングランドは大航海の先駆者ポルトガル、スペインに後れをとりマゼラン海峡、喜望峰回りの南ルートではなく大西洋からカナダ北岸を航行してアジアに抜けるか、ユーラシア大陸北岸、つまり北極海航路を経てアジアに抜けるかの壮大な冒険に国運をかけていた。しかし北西航路開拓が行き詰まり北東航路を取った艦船が辛うじて難破をのがれてロシアの白海に入った 1553 年 8 月が露英の蜜月関係の嚆矢となる。

21 世紀の北極海航路のアイデア先取りと言ひ、19 世紀中央ユーラシアをめぐる露英のグレートゲームの先鞭をつけたイングランドの海賊魂には恐れ入るばかりである。もっとも命知らずのジェンキンソンもアストラハンの町中に吊るされた干しチョウザメが発する猛烈な臭いと雲霞のごときハエの大群には降参したと告白している。(続く)



2016 年 12 月 21 日開催 の日本経済大学主催「第 6 回全日本留学生日本語スピーチコンテスト」 後列中央の白いブラウスがシトラさん

日本語学校代表として参加したシトラさんは、ベトナム、中国、ネパールなど東南アジア諸国からの強豪留学生と競い、見事、後援企業の冠賞を射止めました。流暢な日本語を駆使する中央アジアのウズベキスタン出身の彼女は、審査員の目には、まさに「すい星のごとく現れた」と映ったに違いありません。彼女は持ち時間いっぱい「今の自分があるのは、母国の母親から『おしんになれ』と言いつけられて育ったこと、母国にできた日本語教室で出会った日本人ボランティア講師の導きがあったこと」と、母親と日本の父親 (サポーター) への感謝の気持ちを熱く語っていました。

2005 年に大崎さんが他界された後も、「来日が夢」の子ども達と「海外ボランティアが夢」の日本人、双方のエネルギーがぶつかり合う好舞台の役割を担っていた NORIKO 学級は、今、日本へ続く花道まで作り上げたようです。

(リシタン・ジャパンセンター事務局長)

## ブログとは何ですか。

アンナ・オラロフ

現代のインターネットスペースはブログに基づいた SNS (ソーシャル・ネットワーク) なしでは想像できない。ブログは個人の意見や専門的な知識を伝える方法で、「ウェブ上に残された記録」の意を表す。もし10年前ぐらいに朝目を覚ますとコーヒーを飲んだり新聞を読んだりしたら、現在はTwitter上でニュースを読んだり、朝食の写真をブログに載せないでコーヒーを飲まないという時代が来た。

私はかなり長い間ソーシャル・ネットワークに反対だった。第一に、個人情報やネット上で載せるのが不安である。第二に、ずっと SNS 上で交流したら、ネットの交流は個人交流を替えたり、人々との繋がりが弱くなっていく。SNSはあまり経験のない子供の意識に対する大きな危険をもたらす。

しかし、子供が生まれてから、私もフェイスブックに登録した。なぜかという、遠い友達や親戚と繋がりを保つためだ。その上、去年から「スポーツニク編集部ブログ」の担当者になってから、もっと詳しくブログを現象として検討するようになった。さて、ブログは何ですかという質問に答えてみる。

2016年11月末、英BBCがある分野に優れた貢献した「100人の女性」のリストを発表した。このリストに初めて日本人の女性の名前が含まれた。自分が悩んでいる乳がんとの闘いについてAmebaの「KOKORO」というブログを通して皆に発信を続けているフリーアナウンサー小林麻央さん(34)だった。率直に悩みと感情について書き続けている小

林麻央さんは200万人ぐらいの読者がいる。「KOKORO」は本物のブログの例の一つであると思う。

一方で、自分のブログを作成するのが現代文化の一つとなったようだ。有名な政治家と議員はブログを持つ。例えば、米大統領は自分のフェイスブック又はTwitterを通して「アメリカ第一主義」を広める。ブログは芸術専門を持つ人々の間でもとても人気だ。インスタグラム上でのブログは写真と絵などの作品を展示する場所だけでなく、新しい注文を得る可能性にもなった。マスコミのサイト上でのブログは新しい読者さんの興味を引く可能性をあげる。ロシア系の「スポーツニク」通信社の日本語のサイト上にも去年の秋から「ブログ」というコンテンツが現れた。

「スポーツニク編集部ブログ」の最初の記事が2016年10月6日に発表された。このブログの中で、編集部のスタッフ各人が個人的に気になっている出来事やロシアの事情について語るよう努力する。「ブログ」というコンテンツの中では「ロシアからこんにちは！」と題するビデオブログもあり、その中では医者、画家、店員と通行人などの一般的なロシア人達が遠くて謎のある日本の住民達に「宜しく」を伝える。

ブログを作成するのは簡単だが、それを面白くするのが問題だ。目立つ音声ブログ、ビデオブログ、写真ブログ、漫画ブログまた日記ブログを見たらとても嬉しく思う。ある日、「スポーツニク編集部ブログ」もこうなれるかなあと思う。まだまだですが、どうぞ宜しくお願いいたします。

### モスクワ「ムゼイ」巡り・その4

#### ロマノフ一族の館：Палаты бояр Романовых

大矢 温

「我らの地は大きく豊かだが秩序がない。来たりて公として君臨し統治せよ。」

9世紀の中ごろ、ルーシの人びとがノルマン人(ヴァイキング)を自分たちの支配者として招聘して以来、この時のノルマン人の家系が古代ロシアを支配した。「リューリック朝」である。ところが時代が下ってイヴァン雷帝の子供の代になってこのリューリック朝の血統が途絶えてしまう。16世紀末のことだ。正当な支配者がいなくなったため、そこいら中に自称皇帝や偽物が跋扈し、ロシアは大いに乱れた。しまいには混乱に付け込んだポーランド人が皇帝として即位してしまう。「スムータ(大動乱)期」である。これではいかん、と立ち上がったのはミーニンとポジャルスキー(赤の広場のワシーリー聖堂の前に二人の銅像が立っている)。全国会議の推挙を受けて皇帝に即位したのがミハイル・ロマノフ。1613年のことだ。それ以来、1918年に最後の皇帝ニコライ二世が革命政府によって処刑されるまで、300年以上にわたってこのロマノフ一族はロシアの皇帝を輩出してきた。

今回のムゼイは、そのロマノフ家の「実家」。16世紀の建物だ。赤の広場の目と鼻の先、ヴァルヴァルカ通り沿いにたっている。薄暗い石造りの建物の内部は、家具や食器、武器や倉庫など、ロシア中世の大貴族の生活がそのまま再現されている。窓もガラスではなくて雲母張りだ。外階段を上って2階が入口。いったん下がって1階には倉庫や台所があり、



狭い階段を2階に上がると食堂や書斎がある。さらに上って3階が「女性の部屋」。ロマノフ家の女性が機織りや刺繍をしている場面が再現されている。

建物自体はそんなに大きくないので小一時間もあれば全部見ることができる。モスクワ観光の合間にちょっと足を延ばして中世ロシアの

雰囲気満喫するには絶好のスポットだ。

場所は、Москва, ул. Варварка, д. 10

(<https://goo.gl/maps/Ttp59m8e1q92>)

火曜日は休館日、入場料は大人400ルーブリ。

(札幌大学地域共創学群教授)

#### お願い

NPO 日口交流協会では、ロシアでの日本の伝統文化などの紹介、国内でのロシアに関する講演会、在ロシア人とのイベント交流など幅広い活動を続けております。これらの活動を一層推進させるために皆様からのご寄付をよろしくお願い申し上げます。一口千円から、いくらでも結構です。

振込先：郵便口座 00160-9-66486 加入者名：日口交流協会

連絡先：日口交流協会事務局 E-Mail: [nichiro@nichiro.org](mailto:nichiro@nichiro.org)

Tel: 03-5563-0626 Fax: 03-5563-0752

\*朝妻幸雄氏よりご寄付を頂きました。ご協力有難うございます。



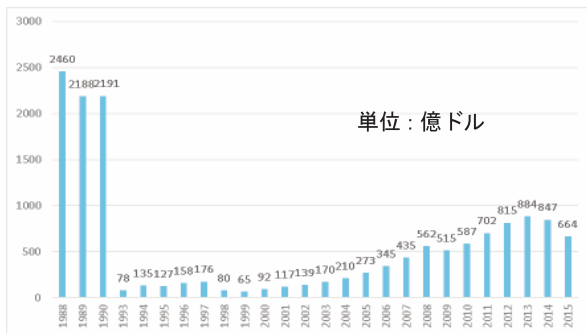
## 2016年大統領年次教書演説

津田 憂子

2016年12月1日、連邦議会に対するプーチン大統領の年次教書演説が行われました。年に一度の教書演説では、政治、経済、防衛、安全保障、科学技術、農業など、様々な分野におけるロシアの方向や戦略に関して大統領の見解を打ち出す場となっています。この教書演説で示された提案やビジョンには法的拘束力などありませんが、近い将来政策レベルで実現されることが通例となっています。直近の教書演説は最近の国際情勢を反映した内容でしたが、その中でも農産品と兵器の輸出に関する大統領の発言は興味深かったので、今回のこのテーマについて少し掘り下げて述べてみたいと思います。

演説の中でプーチン大統領は、農産品の輸出が最近兵器の輸出を上回っているとして、2015年の輸出額は農業が162億ドル、兵器が145億ドルであると指摘しています。かつてはウクライナが穀倉地帯としてソ連の農業を支えていましたが、ソ連崩壊後のロシアの農業生産は、経済不況の影響もあり急激に落ち込みました。しかし、そうした不振の時代から立ち直り、農業分野は現在成長を遂げています。プーチン大統領も2020年まで完全自給自足を目指し、ロシアが農業大国になることを掲げています。また最近、西側諸国の制裁に対する対抗措置として、農作物や食料品のロシアへの輸入が禁止されていますが、代わりに政府は国内の農業関連企業の支援を積極的に行っており、そのおかげで農業生産が伸びているということです。政府による輸入代替政策の推進のおかげといえますね。

ロシア（ソ連）の国防予算の推移



出典：SIPRI Military Expenditure Database を元に筆者作成

一方、軍事分野はどうでしょうか。ロシア（ソ連）の防衛予算の推移を見てみると、ソ連崩壊により予算は激減しました。2015年のロシアの防衛予算は664億ドルでしたが、これはソ連時代の半分も満たしていません。

けれども、この664億ドルというのは、米国（5,960億ドル）、中国（2,148億ドル）、サウジアラビア（872億ドル）に次いで世界第4位の規模です。昔と比べて規模は小さくなりましたがそれでもロシアはまだ世界有数の軍事大国といえますね。

兵器輸出の世界シェアを見てみますと、ロシアは米国に次ぐ世界第2位の地位を占め、兵器輸出大国としての存在感を示しています。2010～2014年のロシアの兵器輸出量は、2005～2009年と比べて37%増加しています。2010～2014年のロシアの兵器輸出取引では、インドが39%を占め、次いで2位が中国（11%）、3位がアルジェリア（8%）となっていて、これら3か国で全体の約6割を占めることになります。

兵器輸出の世界シェアトップ4か国

順位	国名	世界シェア	
		2010-2014年	2005-2009年
1	米国	31%	29%
2	ロシア	27%	22%
3	中国	5%	3%
4	ドイツ	5%	11%

出典：SIPRI Fact Sheet「Trends in International Arms Transfer, 2014」を元に筆者作成

このように、防衛分野の予算額は大幅に減少しましたが、現在でもロシアの戦闘機やミサイル等の軍事兵器は開発・製造・販売において世界の市場で精彩を放っています。この背景の一つとして考えられるのは、世の中の情勢が変化するなかでも、国の存立は軍事力であり、軍事力を支える軍事関連技術開発が根幹にあるという強い信念が、帝政ロシア、ソ連、その後の新生ロシアにおいても延々と受け継がれてきたことによるからでしょう。

政治や外交、経済のニュースが比較的多い昨今のロシアですが、今回のように農業や軍事に注目することも興味深い視座を与えてくれます。

(JST 研究開発戦略センター・フェロー)

### お知らせ

#### ●待望の講演会

『日露交流の歴史——隣人として400年』

日露の友好を目指す協会員にとって必須の日露の交流史を、この道の第一人者中村喜和一橋大名誉教授に「渾身の150分講演」をしていただきます。ご期待ください！

日時：3月25日(土) 14:00～16:30

会場：日比谷図書文化館 4F スタジオプラス

交通：地下鉄霞ヶ関駅、内幸町駅

会費：会員2,500円 一般3,000円 会員学生1,500円

一般学生2,000円 (日口友好団体会員2,500円)

申込：会員/一般/学生・氏名・電話・E-mail等明記の上、協会事務局までお申し込みください。

\*懇話会スタッフ募集：simatac@kzh.biglobe.ne.jp (川島)

#### ●第39回マトリョーシカ絵付け教室

日時：2017年3月19日(日) 13:00～16:00

講師：菅野エレナ

場所：田町駅みなとパーク芝浦、「リーブラ」造形表現室 (田町駅より徒歩5分)

会費：3,000円 (5個セットの教材、講師代、お茶代含む)

\*2回目以降の参加で教材をお持ちの方は2,000円です。

#### ●旧江戸城めぐりウォーキング

日時：3月25日(土) 9:45～13:00

会費：ロシア人・会員学生1000円、会員・一般学生1200円

一般2000円、子ども500円

\*お問い合わせ、お申し込みは協会事務局まで。

Tel:03-5563-0626 E-Mail: nichiro@nichiro.org